<table>
<tr><td colspan="3">魅力度向上対策特別委員会記録</td></tr>
<tr><td>１ 会議の日時</td><td colspan="2">令和 ３ 年 ３ 月 ３ 日
開 会 午前 １０ 時 ００ 分
閉 会 午前 １０ 時 ５０ 分</td></tr>
<tr><td>２ 会議の場所</td><td colspan="2">第１会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３ 出 席 者</td><td>委員</td><td>委員長 玉 田 和 浩 副委員長 佐 藤 武 彦
委 員 村 下 貴 夫 野 村 美 穂 布 俣 正 也
伊 藤 英 生 澄 川 寿 之 平 野 恭 子
平 野 祐 也 小 川 祐 輝 森 益 基</td></tr>
<tr><td>執行部</td><td>別 紙 配 席 図 の と お り</td></tr>
<tr><td>４ 事務局職員</td><td colspan="2">課長補佐 柘 植 利 伸 主査 上 野 由 香</td></tr>
</table>

５ 会議に付した案件

件　　名	審 査 の 結 果
１　中間報告について	原案のとおり承認
２　その他	

６ 議 事 録（要点筆記）

○玉田和浩委員長

ただいまから、魅力度向上対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、中間報告について協議するため開催したものである。

本日は、本年２月から当委員会所属となった森益基委員に、初めて参加をいただいている。

さて、当委員会は、重点調査項目に基づき、テーマを絞り込んだ上で調査検討を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、視察を始めとした調査が十分にできない状況にあることを踏まえ、調査期間が４年程度に延長されたところである。

本日は、これまでの２年間の調査検討を踏まえ、上半期分の調査内容を、中間報告としてとりまとめたいと思いうのでよろしくお願いする。

それでは、審議に入る。

中間報告の案については、予め配布させていただいたとおりだが、何か意見はあるか。

○村下貴夫委員

新型コロナウイルス感染症に関して、ワクチンが開発されたが、長い戦いになると思われる。こうした事態は初めてのことと思われるので、ウィズコロナ、アフターコロナにおける観光施策について、その展望を説明いただきたい。

○渡部観光企画課長

来年度も感染状況を見極めた宿泊キャンペーンに引き続き取り組んでいくほか、ワーケーションやオンラインツアー等の新たな旅スタイルへの対応を進めていく。当面は国内誘客が中心となるが、長期的にはインバウンドによる需要回復にも取り組んでいきたい。

○平野祐也委員

コロナ禍が長期化しているため、海外や東京、大阪等の都市圏からの誘客は当面困難と思われる。鵜飼、下呂温泉など、地元の方が地元を知らないということもあると思うので、次年度はマイクロツーリズムに注力し、ふるさと教育にも結び付けるなど、「県内で安心して旅行してください」というところに舵を切ってもよいのではないか。

○渡部観光企画課長

県観光連盟を通じてサステイナブル・ツーリズムに向けた自然や文化等の体験プログラムの販売を進めており、県民にも利用を促していく。また、宿泊キャンペーンについてもまずは県内から始めることも考えている。

○布俣正也委員

先ごろ、バス会社の方とお会いし、今年が最大の正念場とのお話を聞いた。コロナ禍ではオンライン観光が増えるなど、観光スタイルが変化する中、特に大きな影響を受けた観光バス会社に対して、県として何か後押しはないのか。

○渡部観光企画課長

バス旅行も非常に重要であり、今年度は県観光連盟を通じて支援させていただいたが、感染拡大により催行が少なかったと聞いている。今後、感染への不安が減れば、バス利用も期待されるため、引き続き、バス旅行も促進していきたい。

○野村美穂委員

オンラインツアーは移動時間がないというメリットがある一方、現地にお金が落ちないというデメリットもある。実際に旅行に出かける前のリハーサルという位置付けで活用を進めていただきたい。

また、養老公園、養老天命反転地、養老の滝などの県営公園に係る施設や白山白川郷ホワイトロードなど観光部局以外が所管している施設とも連携すべき。

○渡部観光企画課長

オンラインツアーは観光地への誘客に向けた呼び水であり、各地での観光消費に繋げるための取組みとして進める。

県営公園や白山白川郷ホワイトロードについても、従来から関係部局等と連携しており、引き続き取り組んでいく。

○村下貴夫委員

養老公園はどのような位置づけになっているか。観光地という認識でよいか。

○渡部観光企画課長

西濃地域の主要観光地として認識している。

○村下貴夫委員

それなのに本委員会に公園の所管部局である都市公園整備局が参加していない。養老公園が令和５年で県営公園100周年となることについて知っているか。

○渡部観光企画課長

それは存じ上げなかった。

○村下貴夫委員

新型コロナに強い公園として養老公園の観光需要は増えている。次回からは県営公園の所管部局である都市公園整備局も本委員会に参加すべきである。

○渡部観光企画課長

養老公園及び周辺宿泊施設の盛況ぶりについては存じ上げている。引き続きしっかりＰＲしていく。

○平野祐也委員

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、キャンプ場が非常に盛況である。観光においてキャンプ場はどのような位置付けか。

○渡部観光企画課長

キャンプ場そのものをクローズアップしていないが、県内にキャンプ場は数多くある。地域への消費効果や環境整備等の課題もあるが、コロナ禍において注目されていると認識しており、今後検討していきたい。

○玉田和浩委員長

委員各位には、中間報告の内容の審議に沿った意見を述べてもらいたい。執行部への意見は「その他」で行う。それでは、案のとおり中間報告を決定し、報告することに異議ないか。

（「異議なし」の声あり）

○玉田和浩委員長

異議がないようなので、そのようにする。なお、本日、審議いただいた中間報告は、委員会の調査結果に基づくものであることから、３月24日の本会議における報告については、中間報告の内容を抜粋し、その文案については、正副委員長に一任いただきたいと思うが、これに異議ないか。

（「異議なし」の声あり）

○玉田和浩委員長

異議がないようなので、そのようにする。

本日、審議いただいた中間報告については、議会閉会後、知事に対して手交のうえ報告を行いたいと思うので承知おき願う。

以上で、本日の議事は終了したが、せっかくの機会であるので、各委員に一言ずつ、これまでの本委員会における活動の感想や、来年度以降の調査テーマなどについて、意見をお聞かせいただきたい。

○佐藤武彦副委員長

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、予定通り委員会を開催することができなかったが、

岐阜県の魅力度をしっかり上げていくということで取り組んできた。いろいろなアンケートや指摘から、岐阜県の魅力度、認知度、人気度が低いという報告が多かったが、観光、農業、文化・芸術などしっかりポイントを絞りながら、視察等を通じて素晴らしい資源が身近なところにあることを確認できたため、今後はそれらを発信する方法を考えていく必要がある。中間報告ではポイントをまとめているので、それを踏まえつつ次の委員会活動に繋げていきたい。

新型コロナウイルス感染症の流行から１年経つが、感染原因などの正確な情報が少なく、感染への恐怖を煽る報道が目立つなど、観光と自粛の両立ができていない。今後、新型コロナウイルス感染症が一般的な病気になることを視野に入れつつ、観光と両立して魅力度を高めることができるような政策を進めていきたい。

また、積極的に視察をしながら進めていきたい。

○村下貴夫委員

昨年の都道府県魅力度ランキングにおいて、近隣県は順位をキープしている中で、岐阜県の順位は42位と、その前年の36位から後退した。岐阜県は近隣県と比べても遜色ない魅力を有しており、まずは県民に本県の魅力を認識してもらい、観光地に足を運んでもらうよう取り組む必要がある。本委員会の残りの期間でランキングを10位まで上昇させるべく結束して取り組みたい。

観光は裾野が広く、様々なジャンルが関係するため、本委員会を部局横断的な特別委員会と位置付け進めていくべきである。

○野村美穂委員

私が旅行を計画する際には、宿泊地や立寄地は、地図を見て決めることがある。そこで、誰がどのような目的で岐阜県に来ても、幅広く対応できるよう、目的地別に所要時間が分かるものがあるとよい。また、寺社仏閣や農村地帯、都市公園などとも観光と関連づけて検討を進めるべきである。

その他、情報の感じ方が人によって異なることを踏まえ、様々な視点に立った情報発信に注力いただきたい。来年度、新たな魅力を発見できるように私も取り組んでいきたい。

○布俣正也委員

当県では、下呂、高山、白川村、恵那峡などが観光地としてピックアップされがちだが、県内42市町村にそれぞれ「伝統」、「文化」、「食」などの魅力が必ずある。特に「食」については、重点的に全国、世界へＰＲしていくべきである。42市町村の自慢の「農産物」「食」の魅力を掘り起こしていく視察をしていきたい。

○伊藤英生委員

ウィズコロナは当分続くため、これを契機として本委員会でもオンラインツアーを体験したり、その分野に明るい参考人を招致したりするなどして、活用方法や地域が稼げる仕組みづくりについて検討を進めてはどうか。

また、本委員会においてワーケーションを体験して、先頭に立って発信していくことも、併せて提案する。

○澄川寿之委員

コロナ禍で首都圏や北海道ではツーリングが脚光を浴びており、岐阜県でもツーリング客は少なくないと思われるが、県内では駐輪場等の整備ができていないといった課題を耳にする。また、白山白川郷ホワイトロードでは二輪車による通行が禁止されている。どこまでニーズがあるのか、調べ切れてはいないが、こうした様々なツールを使った観光手段の多様化という部分で研究してみてはどうか。

観光に欠かせないのが「食」であり、様々な支援制度をつくってもらってはいるが、食べていただける場所がなければ消費も増えないということから、引き続き飲食店への支援が必要である。

○平野恭子委員

新型コロナウイルス感染症のワクチンの供給と予防接種の時期が遅れていることもあり、来年度も観

光振興が難しい年となると推測する。

自宅で料理をする機会が増えたため、関の刃物を購入したが非常に素晴らしいものであると実感できた。岐阜の「食」をアピールすることが非常に重要だが、刃物、器などを絡めた魅力発信など、身近なところから取り組んでいくべきである。

また、コロナの状況が落ち着いたらぜひ誘客キャンペーンを展開し、県の魅力をアピールしていただきたい。

○平野祐也委員

ホテルの数がボトルネックであると感じているため、誘客対象をアウトドアなどの趣味やライフスタイルに特化させた施策を展開してはどうか。趣味は、なかなか止められない部分であると思う。単純に観光地として北海道や沖縄と岐阜を比べた場合、一般的に岐阜は選ばれないだろうが、スキーなどの趣味やライフスタイル等に特化させた場合、その結果も異なってくると考える。岐阜の魅力をどの世代に、どのように届けたいのか絞っていくことで、その分野から岐阜の認知度が高まると思う。今後の２年間で内容を研ぎ澄ませていきたい。

○小川祐輝委員

コロナ禍以降、知恵を絞って取り組まれた結果、解説付きの地歌舞伎オンライン動画の配信など新しく分かりやすいものが生まれた。伝統や文化は非常に重要であり、今後も守り続けていく必要がある。

また、コロナ禍でツーリングが脚光を浴びているが、岐阜県は北海道に次いで全国２番目に道の駅が多い県である。道の駅は道路維持課の所管ではあるが、観光にも十分関係するため、物産販売や情報発信の面で積極的に取り組んでいくべきである。成功している駅を分析して道の駅全体の底上げを図りたい。

○森益基委員

苗木城、地歌舞伎、中山道17宿など、東濃地域の魅力をＰＲいただき感謝申し上げる。中間報告にある「魅力的な地域とのイメージが定着すれば、更に人々が集まるという好循環が生まれる」の実現に向けて、体験観光に加えて、例えば、東濃桧の植林、間伐、建築などの各場面を見てもらって魅力を伝える、滞在型観光を打ち出してはどうか。

また、観光以外の分野における魅力の発信も重要である。中津川の高峰楽器製作所は世界を相手にしたギターを作っており、北海道の利尻島から興味を持って就職した方がいるほど。こうした特異な企業も、魅力を発信するものとして捉えていくべきである。

○玉田和浩委員長

今後の取組みについて、いろいろな意見をいただいた。

本委員会の発足当初は日本全体で観光客が増えている状況であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で観光需要がトーンダウンし、観光産業の収入が激減していることもあり、本委員会はこれからも非常に重要であると考える。

本県の魅力度ランキングが昨年の42位から10位まで上昇するような施策展開が我々の使命であり、ニーズの掘り起こしや情報発信が重要となってくる。現地視察を通して地域や現場の声に耳を傾け、残りの２年間で着実に取り組んでいきたい。

最後に総括して観光国際局長から発言いただきたい。

○矢本観光国際局長

新型コロナウイルス感染症は人々の価値観をも変えてしまう程の大きな影響を与えるものであり、観光の捉え方も大きく変わった。観光とは、観光客を呼んで消費額を増やすというだけに止まらず、地域づくりや人づくりなど、様々な分野に通ずるテーマであると認識しており、その可能性は無限大である。コロナ禍という制約は続くが、新技術を活用するなど、新たな時代への対応、新たな旅スタイルの確立に向けて着実に取り組んでいきたい。

○玉田和浩委員長

各委員から意見を聞いたところだが、他に意見等はあるか。また、執行部の方、何かあるか。

（「なし」の声あり）

○玉田和浩委員長

意見も尽きたようなので、本日の委員会を終了する。

魅力度向上対策特別委員会配席図

令和3年3月3日

第1会議室

出入口

農政課 農業研究企画監 石垣　要吾	海外戦略推進課 インバウンド推進監 加藤　英彦	観光企画課 観光コンテンツ活用推進室長 高井　哲也
里川振興課 水産振興室長 桑田　知宣		
農産物流通課 東京オリンピック・パラリンピック農産物販売対策室長 高木　賢二	海外戦略推進課長 池戸　克成	文化創造課 芸術文化企画監 山岸　克則
農産園芸課長 井戸　誠二		恵みの森づくり推進課 ぎふ木育推進監 古沢　弘康
里川振興課長 清水　浩二	観光企画課長 渡部　達弥	文化伝承課長 有田　誠二
関ケ原古戦場整備推進課長 若山　典		県産材流通課長兼東京オリンピック・パラリンピック県産木材利用促進対策監 久松　一男
農産物流通課長 田口　博康	観光国際局長 矢本　哲也	文化創造課長 青木　伸秦
観光国際局副局長 尾関　新太郎		恵みの森づくり推進課長 長屋　秀樹

傍聴席・記者席

傍聴席・記者席

森(益)
委　員

平野(祐)
委　員

澄　川
委　員

布　俣
委　員

村　下
委　員

小川(祐)
委　員

平野(恭)
委　員

伊藤(英)
委　員

野　村
委　員

議会事務局

議会事務局

出入口

佐　藤 副委員長	玉　田 委員長